

第**60**期

# 年次報告書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

旅でもっとつながる世界へ。  
好奇心でもっと感じる世界へ。



## 株主の皆さまへ

### 当期（第60期）の業績

株主の皆さまには、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。第60期の事業活動をご報告申し上げます。

当社グループは、旅ナカ事業を強化するために2018年6月にコールセンター業務を営む株式会社Kuquluを買収いたしました。また、2018年9月にグアムにて主催会社としてマリンアクティビティサービスを提供する現地法人GUAM OCEAN PARK CORPORATIONを設立いたしました。体制面においては、前連結会計年度より新体制のもと業務効率化等の施策を実施しておりますが、長期化する出版不況、無料ナビアプリの普及拡大等、外的経営環境の変化による業績への多大なる影響が継続しております。かかる事態に対応すべく、さらなる構造改革に向けて希望退職者の募集を行いました。

当期は、電子売上は引き続きナビゲーション関連の売上減少や地図配信サービス売上が減少したものの、下げ止まりつつあります。市販出版物におきましても、返品抑制のための市場在庫管理を徹底したことにより返品額が減少したものの、地図が大幅に減少したことにより、売上高は減少いたしました。

この結果、当社グループの売上高合計は、前連結会計年度に比べ3億88百万円（4.2%）減少し、87億70百万円となりました。

損益面では、売上原価においては、返品抑制や事業構造改革による効率化により、売上高の減少分を超えて減少いたしました。販売費及び一般管理費においては、海外を含め連結子会社が増加したことなどにより前連結会計年度に比べ増加いたしました。また、希望退職制度の実施による特別退職金や固定資産の減損損失を特別損失として計上いたしました。

これによりまして、営業損失は6億55百万円（前連結会計年度は営業損失10億60百万円）、経常損失は5億90百万円（前連結会計年度は経常損失10億18百万円）、親会社株主に帰属する当期純損失は18億15百万円（前連結会計年度は親会社株主に帰属する当期純損失17億68百万円）となりました。

### 当期の配当

当期の剰余金の配当は、これまで1株につき5円の配当予想とさせていただいておりましたが、上記の通り、多額の損失を計上することとなり、その結果、利益剰余金が予想を大きく下回るマイナスの状態となったため、誠に遺憾ながら無配とさせていただきます。株主の皆さまには、深くお詫び申し上げますとともに、早期に復配できるよう努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

### 次期（第61期）の見通し

次期の主な取り組みとしましては、まず従来の体制を、紙とデジタル、ネットとリアル、既存と新規等、事業の枠組みとなっていた概念を取り払い、ユーザーニーズに沿った話題性の高い情報・サービスの提供を行う「メディア事業」、媒体の形態にかかわらず、ビジネス・自治体ユーザー向けのデータソリューションを提供する「ソリューション事業」、国内・海外にかかわらず、また現地でのリアルなアクティビティサービス提供を含めて、世界中の旅行ニーズに対応する「グローバル事業」の三事業本部へと改組し、自由で柔軟な発想と行動で、この苦境に対応してまいります。具体的には、従来事業に加えて、メディア事業におけるブランドビジネスの拡張（受託開発、タイアップ、ライセンス等）、ソリューション事業における「業務用ナビ」「おかえりQR」等の製品の拡販、グローバル事業における「GUAM OCEAN PARK」でのリアルサービスの提供に注力しております。

このような状況のもと、売上高90億70百万円（当連結会計年度比3.4%増加）、営業利益1億20百万円、経常利益2億10百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2億円を見込んでおります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

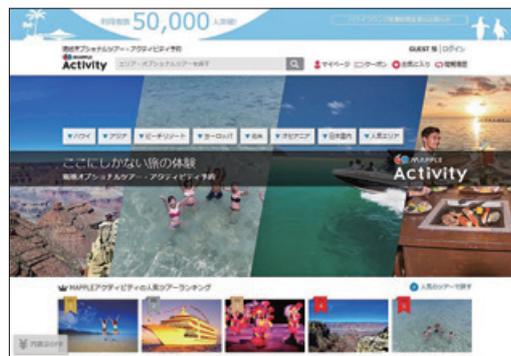


代表取締役社長

**黒田 茂夫**

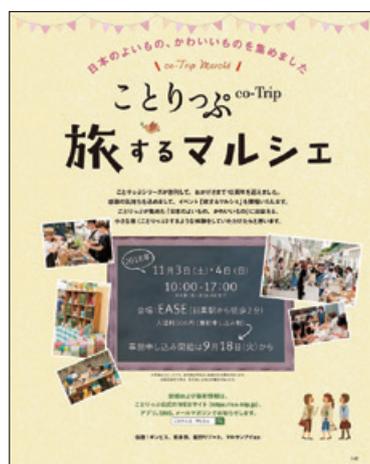
## 旅ナカ事業のさらなる拡大と ツアー催行事業への参入

2017年7月に開始した旅ナカ（現地）でより旅を楽しむための海外向け現地オプショナルツアー予約・販売代行サービス「MAPPLE Activity（マッフルアクティビティ）」は、オセアニア、北米をサービスエリアに加えたほか、今年1月より国内でも本格的にツアー提供を開始、この2年で世界32エリア、126都市・地域ものツアーを取り扱う日本最大級のアクティビティ販売サイトにまで成長を遂げました。



今年5月10日には、子会社であるGUAM OCEAN PARK CORPORATIONがグアムにて運営するアクティビティ施設「グアムオーシャンパーク」がグランドオープン、ジェットスキー、パラセーリング等のアクティビティ催行を行うとともにリゾート施設を運営、旅ナカ主催事業に本格的に進出しました。

これにより、雑誌・WEBメディアから始まり、旅の思い出作りまでを一貫して昭文社グループとして提供できるようになりました。



## ことりっぷ創刊10周年記念の様々な施策を実施

2008年創刊のガイドブックシリーズ「ことりっぷ」は、書籍タイプのガイドブックとしては異例の10年を超えるロングセラーとなりました。シリーズ累計の発行部数はおかげさまで1,600万部を超え、現在も大変なご支持をいただいております。

創刊10周年を記念して、昨年5月より「ことりっぷ 10周年の10のこと」と題した複数の企画を実施、中でも昨年11月に東京・目黒のイベントスペースにて開催したことりっぷブランド初の大型イベント「ことりっぷ 旅する マルシェ」は、「日本のよいもの、かわいいもの」をテーマに、日本全国から編集部がセレクトしたお店が集まり、食品、雑貨などの販売を実施。商品、ワークショップとも完売となり、成功裏に幕を閉じました。さらに今年3月には東京・蔵前のカフェとコラボした6日間限定の「ことりっぷカフェ」を開催。

ガイドブックに始まり、WEBサイト、アプリ、SNS、コラボ商品、そしてリアルな場に至るまで、「ことりっぷ」のブランドビジネスが大きく花開いています。

## 道迷い・遺失物早期位置発見サービス「おかえりQR」開始

昨年10月より、道に迷われた方、遺失物などを対象に、IoT技術を活用した位置情報サービス「おかえりQR」を、日本郵便株式会社および明治学院大学岡本多喜子教授の協力を得て商品化し、埼玉県南部の99郵便局にて先行販売を実施しました。

今年2月からはオンライン販売も開始し、見守りを専門とされる方々、遺失物等が多い施設、関係団体へのサービスの認知拡大にも努め、ご家族・持ち主の方に安心をお届けすべく、日夜取り組んでおります。



# 連結財務諸表

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目	第59期	第60期
	2018年3月31日現在	2019年3月31日現在
資産の部		
流動資産	12,378	10,547
固定資産	9,810	9,147
有形固定資産	6,397	5,673
無形固定資産	—	181
投資その他の資産	3,413	3,292
資産合計	22,188	19,695
負債の部		
流動負債	3,708	3,622
固定負債	866	786
負債合計	4,575	4,408
純資産の部		
株主資本	16,828	14,649
資本金	10,141	10,141
資本剰余金	10,581	5,959
利益剰余金	△ 3,894	△ 1,450
自己株式	△ 0	△ 0
その他の包括利益累計額	758	611
新株予約権	26	25
純資産合計	17,612	15,286
負債純資産合計	22,188	19,695

## 連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	第59期	第60期
	2017年4月1日から 2018年3月31日まで	2018年4月1日から 2019年3月31日まで
売上高	9,158	8,770
売上原価	7,093	6,252
返品調整引当金繰入差額	△ 67	△ 124
売上総利益	2,133	2,641
販売費及び一般管理費	3,193	3,297
営業損失(△)	△ 1,060	△ 655
営業外収益	112	102
営業外費用	69	37
経常損失(△)	△ 1,018	△ 590
特別利益	2	56
特別損失	713	1,237
税金等調整前当期純損失(△)	△ 1,728	△ 1,771
法人税等合計	39	43
親会社株主に帰属する当期純損失(△)	△ 1,768	△ 1,815

### 連結損益計算書のポイント

電子売上では、引き続き無料ナビアプリの影響や無料地図サービスの影響で、売上は減少しました。市販出版物においては、市場在庫管理を進めたことにより、返品額は減少しましたが、特に地図出版物の売上が減少し、売上は前年を大きく下回りました。この結果、売上高は対前年比で4.2%減少し、87億70百万円となりました。

利益面では、事業構造改革による効率化が継続したことで売上原価が売上の減少分を超えて減少したため、販売費及び一般管理費において海外を含めた連結子会社における人件費の増加はありましたが、営業損失は4億5000万円改善し、6億5500万円となりました(前年は営業損失10億6000万円)。また、さらなる構造改革に向けて希望退職者の募集を行いその応募を受け、特別退職金を計上するとともに当社及び子会社が保有する固定資産について減損損失を計上いたしました。その結果、親会社株主に帰属する当期純損失は18億1500万円となりました(前年は親会社株主に帰属する当期純損失17億6800万円)。

財務諸表の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。URL <https://www.maple.co.jp/ir/>

## 連結貸借対照表のポイント

### 流動資産

売上高が減少したことに伴い現金及び預金が12億8400万円、受取手形及び売掛金が2億1000万円、商品在庫及び仕掛品の減少により商品及び製品が1億7000万円、仕掛品が9600万円減少し、流動資産は18億3000万円減少の105億4700万円となりました。

### 固定資産

有形固定資産は償却の進行に加え、機械装置及び運搬具、工具器具備品、土地において減損損失を計上したため、7億2300万円減少し、56億7300万円となりました。

無形固定資産は、のれんを計上したため、1億8100万円となりました。

投資その他の資産は、貸倒引当金が3億1800万円増加した一方で、投資有価証券が1億3600万円減少し、その他が2億9400万円減少したため32億9200万円となりました。

以上から固定資産は6億6200万円減少し、91億4700万円となりました。

総資産は24億9200万円減少し、196億9500万円となりました。

### 負債

未払費用が2億8500万円増加した一方で、支払手形及び買掛金が1億5700万円、賞与引当金が8800万円、返品調整引当金が1億2400万円減少し、負債は8600万円減少の36億2200万円となりました。

### 純資産

資本剰余金から利益剰余金への振替、及び当期純損失の計上によって、利益剰余金が24億4300万円増加する一方で、資本剰余金は46億2200万円減少し、純資産は23億2500万円減少し、152億8600万円となりました。

### 自己資本比率

自己資本比率は1.8ポイント減少し77.5%となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	第59期	第60期
	2017年4月1日から 2018年3月31日まで	2018年4月1日から 2019年3月31日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 646	△ 589
投資活動による キャッシュ・フロー	238	△ 322
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 363	△ 364
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 767	△ 1,286
現金及び現金同等物の 期首残高	7,899	7,132
現金及び現金同等物の 期末残高	7,132	5,845

### 連結キャッシュ・フロー計算書のポイント

営業活動によるキャッシュ・フローは、5億8900万円の支出となりました。主な要因は税金等調整前当期純損失を17億7100万円計上した一方で、減損損失が7億5100万円、特別退職金が4億1300万円あったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、3億2200万円の支出となりました。主な要因は無形固定資産取得による支出1億8200万円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出1億9500万円があったことによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、3億6400万円の支出となりました。主な要因は配当金の支払額3億6300万円によるものです。

現金及び現金同等物の残高は前期末から12億8600万円減少し、58億4500万円となりました。

# 会社情報 (2019年3月31日現在)

## 会社概要

商号	株式会社昭文社 (Shobunsha Publications, Inc.)
創業	1960年5月
本社所在地	東京都千代田区麹町三丁目1番地
資本金	101億41百万円
従業員数	単体237人、連結333人
事業所	本社 東京都千代田区
	大阪支社 大阪市淀川区
	制作本部 東京都江東区
	仙台営業所 仙台市若林区
	横浜営業所 横浜市西区
	名古屋営業所 名古屋市千種区
	福岡営業所 福岡市中央区
	東京商品センター 東京都足立区
	大阪商品センター 大阪府摂津市
	埼玉製本センター 埼玉県加須市

## 役員 (2019年6月27日現在)

代表取締役社長	黒田 茂夫
取締役	清水 康史
取締役	上原 嗣則
取締役 監査等委員	飯塚 新真
取締役 監査等委員	※ 関 聡介
取締役 監査等委員	※ 桑野 雄一郎

※社外取締役

## 関係会社

株式会社マップル・オン	東京都新宿区
株式会社昭文社クリエイティブ	千葉県市原市
株式会社トリブコン	東京都千代田区
株式会社Kuqulu	東京都千代田区
SHOBUNSHA HAWAII CORPORATION	米国 ハワイ州
SHOBUNSHA GUAM CORPORATION	米国 グアム準州
GUAM OCEAN PARK CORPORATION	米国 グアム準州
SHOBUNSHA SINGAPORE PTE.LTD.	シンガポール共和国
株式会社マップル・スプリング	東京都千代田区

# 株式情報 (2019年3月31日現在)

## 株式の状況

発行可能株式総数	57,000,000株
発行済株式の総数	18,178,173株
株主数	20,856名

## 所有者別株式分布状況



所有者区分	持株比率 (%)
個人・その他・自己名義	13.6
金融機関	23.0
外国法人等	22.5
その他の法人	39.2
金融商品取引業者	1.7

## 株式についてのご案内

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	毎年3月31日
中間配当金受領株主確定日	毎年9月30日(中間配当を行う場合)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 Tel 0120-232-711 (通話料無料)
	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告 公告掲載URL <a href="https://www.mapple.co.jp/">https://www.mapple.co.jp/</a> (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします)
単元株式数	100株
上場証券取引所	東京証券取引所
証券コード	9475

### お知らせ

- 株主様の住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなります。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。  
株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

## 大株主 (自己株式を除く上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
黒田 敏夫	3,574	19.66
黒田 茂夫	1,699	9.34
株式会社エムティーアイ	1,596	8.78
MSCO CUSTOMER SECURITIES	1,422	7.82
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	783	4.30
株式会社MGSHD	774	4.25
昭文社社員持株会	629	3.46
株式会社三井住友銀行	347	1.91
SPSHD株式会社	333	1.83
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	258	1.42

## 株主優待のご案内

当社では、当社の事業についてより深くご理解いただきたく、株主優待制度として、2019年3月末日現在、100株以上ご所有の株主様に3,000円相当の当社商品を進呈しております。

本年はいずれも新刊商品である「なるほど知図帳 平成本」、『地図で巡る万葉集』、『Re 東京』の計3冊をお送りいたします。

株主優待品は7月中の発送を予定しております。

### 株主優待品の発送についてのお問い合わせ

株主優待事務局 (2019年9月末まで)

0120-517-655

(受付時間 9:00~17:00/土・日・祝日を除く)

この5月の改元を以て終わりを迎えた「平成」の時代を、ギュッと凝縮して振り返る新刊「なるほど知図帳 平成本」



### 表紙の写真

表紙右上の写真は、石垣島のフサキビーチ(沖縄県)(当社所属カメラマンが撮影した写真を使用しました)